



平成26年火災・救急・救助件数



出火原因から見る予防対策

出火原因 第1位 たき火・火入れからの出火防止 ~防ごう枯草火災~

毎年2～5月ごろにかけて、枯草の焼却による火災が多く発生します。過去には燃え広がった火を消そうとしていた方の着衣に着火し、亡くられるという火災も発生しました。「たき火・火入れ」からの火災をおこさないよう、次のことに気を付けましょう。

- ✓1 付近住民や環境問題に配慮し、できるだけ枯草などの焼却はしない
- ✓2 農作業などでやむを得ず焼却行為を行う場合は、必ず消防署へ届け出る
- ✓3 消火するまでその場を離れない
- ✓4 消火に必要な消火器や水バケツを準備する
- ✓5 1人で焼却を行わない
- ✓6 風の強い日や空気が乾燥している日は、焼却を行わない
- ✓7 焼却する場合は、付近の燃えやすいものを除去する



火災件数は昨年より1件増え47件で、建物火災の件数を前年と比較すると5件増え22件となりました。また4人の方が焼死されています。

火災の発生原因を見ると、1位は9年連続で「たき火・火入れ」(16件)で2位は「放火・放火の疑い」(5件)、3位は「こんろ」(3件)と「電気」(3件)でした。

12月には、電気ストーブが原因の火災が2件発生しましたが、これは、寝具類が電気ストーブに接触したことにより、出火したものです。お年寄りや一人暮らしの世帯では、特にストーブなどの暖房器具からの出火に気を付けましょう！

今年1年も無火災で過ごせるよう、常に「火の用心」を心掛けてください。



出火原因 第2位 放火を防ぐ対策 ~放火されない環境づくり~

国内の出火原因1位は、毎年「放火・放火の疑い」がトップとなっています。本市でも、「放火・放火の疑い」による火災が、昨年より3件多い4件発生し、増加傾向にあります。放火を防ぐためには、放火されない環境を作ることが大切です。次の項目をチェックし、放火を防ぐ対策をとりましょう。

- ✓1 家の周りに燃えやすいものを置かない
- ✓2 車庫や物置などは必ず鍵をかける
- ✓3 郵便受けの郵便物などはこまめに取り出す
- ✓4 車は必ず鍵を閉める
- ✓5 車やバイクのカバーは防災物品を使用する
- ✓6 ごみは決められた日の決められた時間に出す
- ✓7 不審者などの情報は、自治会単位で共有する



3月1日～7日まで 春の全国火災予防運動を実施します！

この時期は、空気が乾燥し風も強くなり、火災が発生しやすくなることから、火災予防意識を高め、火災の発生を防止することを目的として実施します。火災は少しの油断で発生することを理解し、大切な命や財産を守るため、「火の用心」を忘れずに！

消防ミニ図鑑 No.34 [消防テレホンサービス]

☎(27)1199

消防局では市民の皆さんに当番医や火災などの災害情報をお知らせするため、「消防テレホンサービス」を設置しています。

毎日18時～翌朝8時30分までは内科・外科の夜間当番医を、日曜祭日の8時30分～18時までは、休日在宅医を音声により案内しています。

また、市内で火災などの災害が発生したときは、災害の種類や場所を案内しています。当番医などの情報を知りたいときは、緊急用の「119番」ではなく、「消防テレホンサービス☎(27)1199」をご利用ください。



下甕町海星中学校職場体験



平成27年 消防出初式(川内会場)

編集：薩摩川内市消防局予防課 / <http://www.satsumasendai-fp.jp> 薩摩川内市消防局 検索

大地震を風化させない! ~被災地からのメッセージ~

日本中が悲しみに包まれた平成23年3月11日、皆さんはあの日何を思い、どう変わりましたか。東日本大震災からまもなく4年、さらに、阪神淡路大震災から先月17日で20年が経過しました。今回、東日本大震災の被災地である福島県の須賀川地方広域消防組合を通じ、被災された方から市民の皆さんへのメッセージをいただくことができました。被災者の生の声を聞き、いつ発生するとも分からない地震災害に備え、あの大災害をいつまでも忘れず、教訓としましょう!!



福島県須賀川市の被災状況

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、地鳴りと共に大きな揺れがやってきた。今まで経験のしたことのないほど強く長い揺れでした。震度6強。家の中は、テレビ、タンス、冷蔵庫が倒れ、自宅の壁には大きな亀裂が入り、屋根瓦は落ち、基礎部分にも亀裂が入るほどの激しいものでした。大きな余震が何度も何度も起き、さらに停電、断水で何もする事ができず、こんな大きな災害を自分が生きている間に経験するとは夢にも思っていませんでした。震災の影響で直後から停電・携帯電話の不通により情報が得ることの難しさを痛感し、持っていた携帯ラジオが唯一の情報源でした。災害発生の有無に絶対はありません。私は、今回の東日本大震災を経験し、発生することを前提とした「日ごろの備え」と、災害を想定した「訓練」がいかに大切かを痛切に感じています。薩摩川内市の皆さん、決しておどしではありません。必ず発生すると言われている大きな地震災害に対し、まず「心の準備」をし、そして自分と家族の命を守るため、「あらゆる備え」をしておいて下さい。私たちの町はまだ完全に復興したとはいえませんが、辛く苦しい時期もありましたが、前を向いて日々頑張っています。どうか見守って頂いてください。遠く離れた薩摩川内市の皆さんが健康であられることを願っています。

鹿児島県薩摩川内市の皆さまへ
「東日本大震災を経験し思うこと」
福島県須賀川市 川上敏夫(64歳)



地震発生時の行動

